

## 山北町河内川の小断層

今 永 勇

Isamu IMANAGA: Minor Faults Observed  
at Kouchi River, Yamakita-cho  
Kanagawa Prefecture

丹沢層群と足柄層群とを境する神縄断層は、丹沢山地の南縁部を東西に追跡できる。この断層の軌跡が、河内川の谷の部分で北に深く食い込んでいるのは、周知の事実である(図1)(星野ほか, 1977・星野, 1978)。今回調査した山北町用沢(図1の矢印の地点)は、河内川沿いに足柄層群が食い込んでいる地域にあり、河内川の河床に塩沢層が露出し、小断層が発達している(天野他, 1986)。

小断層が発達しているのは、泥岩・砂岩・礫岩互層であり、その走向は、北35度東、傾斜は、西に65度で

ある。小断層は、走向西北西で横滑りを示す逆断層のほかに、図2、図3に示すような共役な断層が認められる。共役な断層に沿って砂岩細脈が進入しているところが認められ、地層の固化が進まないうちに活動した断層であることを示している。共役な断層から解析した最大圧縮応力軸は北北西—南南東から北西—南東、北傾斜と南傾斜を示す(図4)。応力場は地層の走向に直交あるいは斜交した関係にあり、小断層による水平面内での地層の移動量は、最大約30cmであった。

共役な断層から推測された最大水平圧縮応力は、河内川左岸に見られる神縄断層を切る南北性断層の形成とは、関係のない時期のものである。

## 文 献

- 星野一男・長谷紘和, 1977. 神縄断層を切る南北性断層について. 地質雑, 83: 62-64.  
星野一男, 1978. 丹沢山・足柄突き出し構造の意義. 地震学会秋期大会予講集, 163.  
天野一男・高橋治之・立川孝志・横山健治・横田千秋・菊池 純, 1986. 足柄断層の地質—伊豆微小大陸の衝突テクトニクス—. 北村 信教授記念地質学論文集, 7-29.

(神奈川県立博物館)

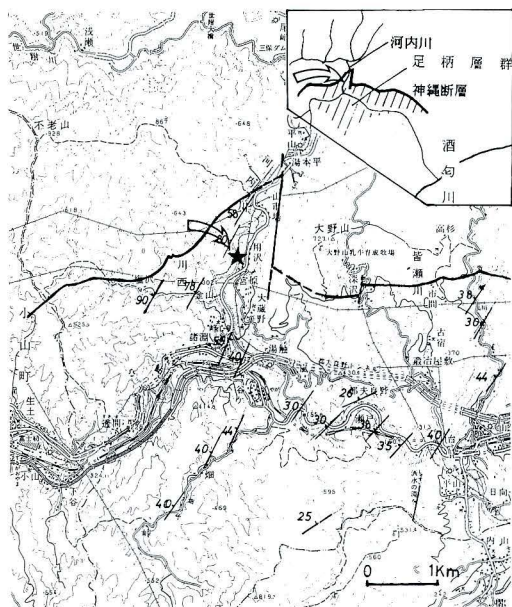


図1. 河内川と神縄逆断層のトレースおよび調査地点(矢印)

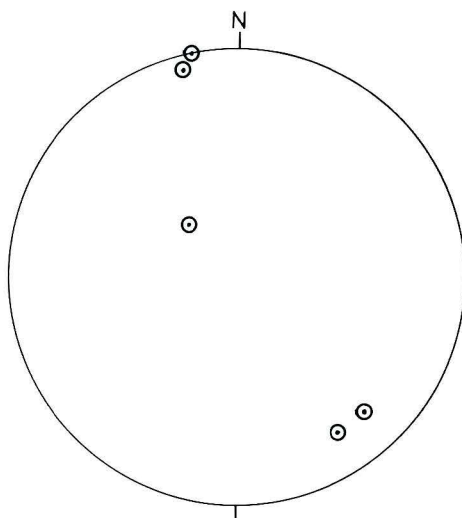


図2. 共役断層からみちびいた最大水平圧縮応力(シュミット・ネットの下半球に投影)

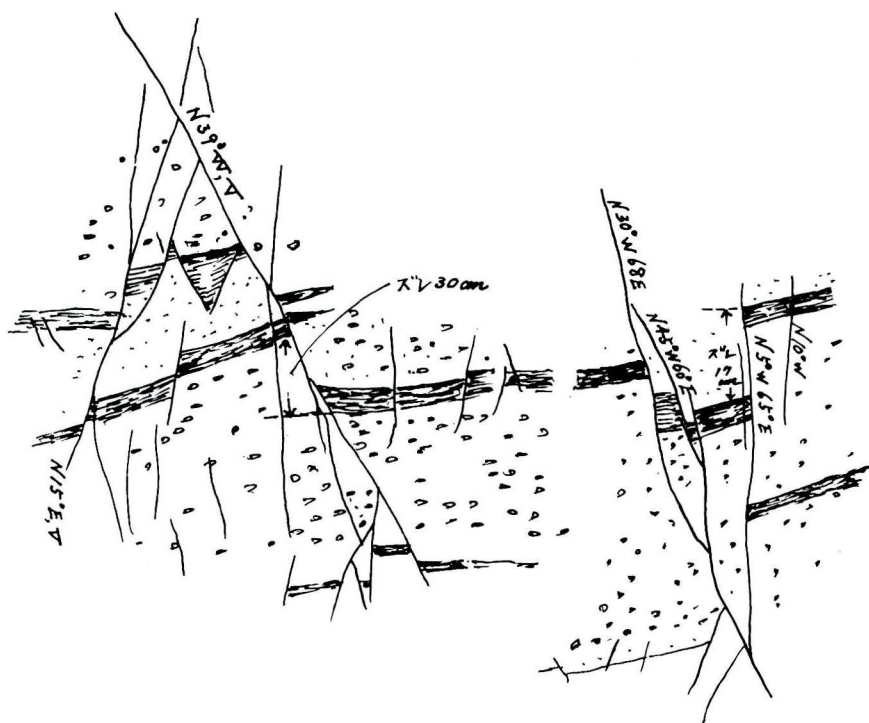


図3. 共役な小断層のスケッチ



図4. 共役小断層露頭